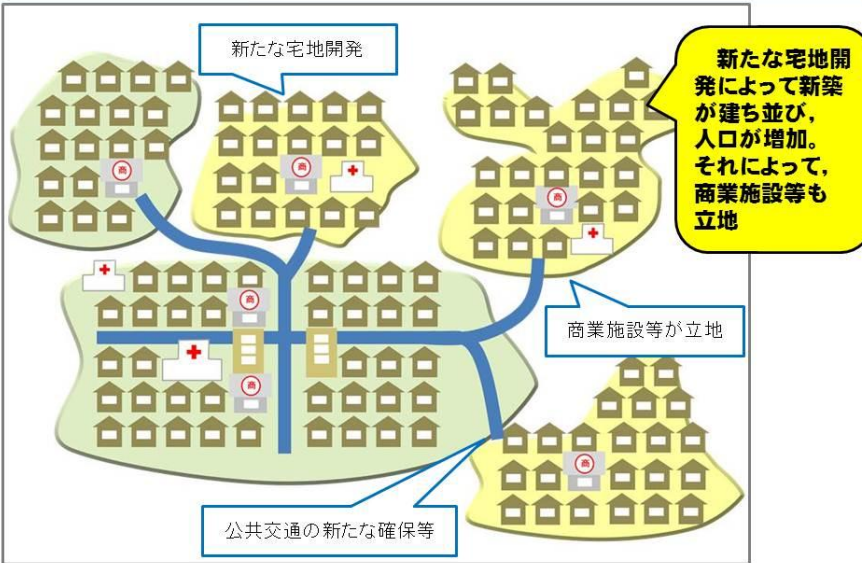


なぜ「コンパクトシティ」？

これまでのまちづくり

人口の増加にあわせ、新たな宅地の開発等、市街地の「拡大」を前提としてまちづくりを行ってきました。



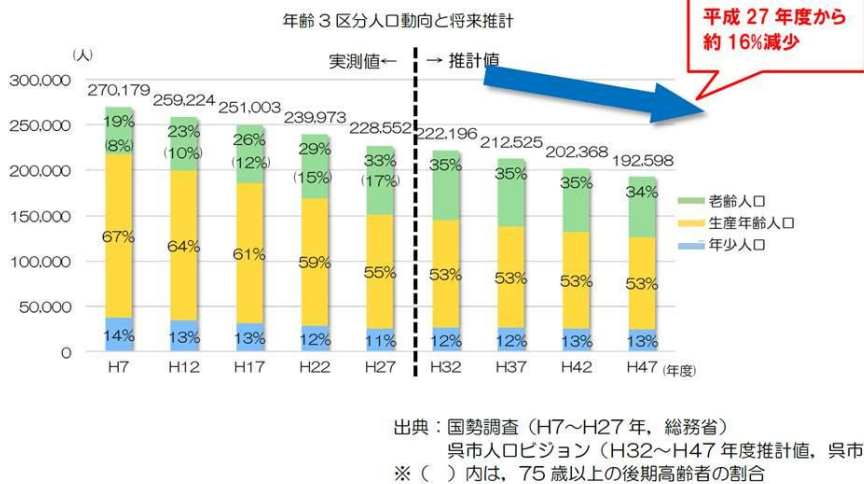
<これまでのまちづくり>

これまでは、人口の増加にあわせ、新たな住宅団地の造成や宅地の開発等、市街地の「拡大」を前提としてまちづくりを行ってきました。

また、新たな市街地の形成によって、商業施設や医療施設等の都市機能の立地や、バス路線の確保等が行われてきました。

呉市を取り巻く状況

人口減少が進行しており、平成47年度には平成27年度から約16%減少する見込み。



<呉市を取り巻く状況>

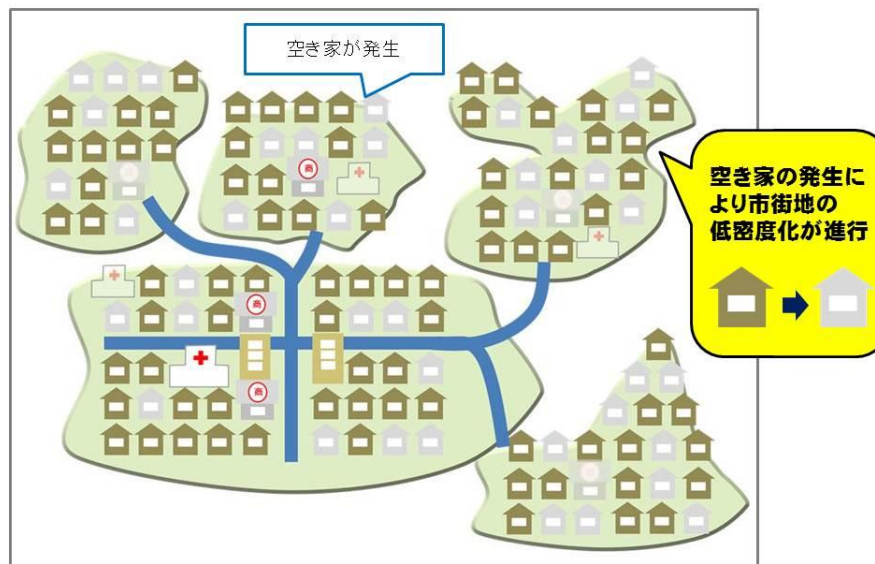
呉市の人口は、約23万人であり、平成28年4月に中核市となりました。

平成7年から平成27年までの過去20年間で、人口は約4万人、約15%減少しています。

また、呉市人口ビジョンによると、平成47年度には、人口は約19万人となる見込みで、平成27年度と比較して約3.6万人、約16%減少することが想定されています。

このままでは・・・

人口減少によって、市街地の低密度化(スポンジ化)が進行していきます。



<このままでは・・・>

今後の人口推計を踏まえれば、人口減少に伴い、空き家が増加し、延いては市街地の人口密度※の低密度化(スポンジ化)が進行していきます。

※人口密度とは

人口密度(人/ha)とは、一定の単位面積内の人口を表したもので、土地利用の状況を表す指標の1つである。大都市圏になるほど人口密度は高く、過疎地になるほど人口密度は低い。

このままでは・・・

市街地の低密度化(スポンジ化)が進行することで、地域コミュニティの活力低下や商業・医療・福祉等の都市機能、バス等の公共交通の維持が困難となるおそれがあります。

空き家の発生により市街地の低密度化が進行



低密度化によっておこりうること

- 地域コミュニティの活力低下
- 商業施設や病院等の経営が困難となり、撤退するおそれ
- バス等公共交通の経営が困難となり、撤退するおそれ



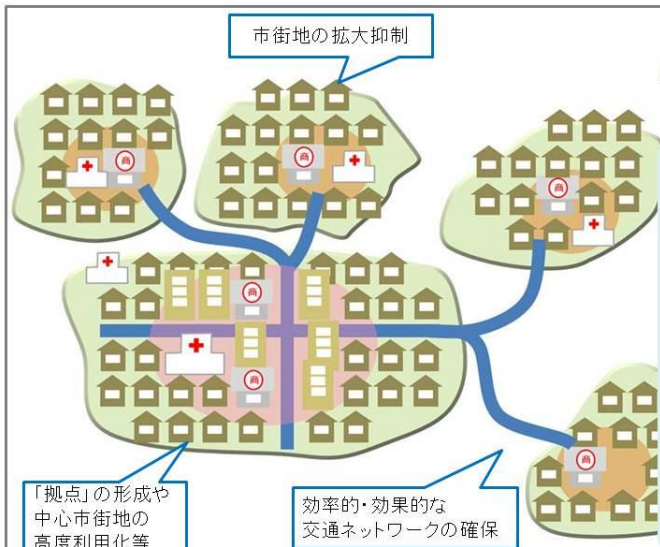
<このままでは・・・>

市街地の低密度化が進行することで、地域コミュニティの活力の低下が懸念されます。また、スーパーやコンビニ等の商業施設、また、医療施設やバス等の公共交通等の生活を支えるサービスの経営が困難となり、撤退するおそれもあります。

そうなると、「まち」としての様々な機能を持続させることが出来ません。

そうなる前に

持続可能なまちづくりに向け、市街地の拡大を抑制することを基本として、人口密度を維持していく取組が必要です。



人口密度を維持していく取組が必要

「コンパクトシティ」の形成

- 市街地の拡大抑制
- 商業・医療・福祉等の都市機能を維持する「拠点」づくり
- 「拠点」の周辺への居住機能の誘導
- 「拠点」間や地域内を結ぶ効率的・効果的な交通ネットワークの構築

<そうなる前に>

人口減少下において、持続可能なまちづくりを行うために、市街地の拡大を抑制することを基本として、人口密度を維持していく取組が必要となります。

そのために、商業や医療・福祉等の都市機能を維持していく「拠点」づくりや拠点間・地域内を結ぶ効率的・効果的な公共交通ネットワークの確保等を行い、「コンパクトシティ」の形成を目指します。

都市の将来を見据えて

人口減少・少子高齢社会の進行に対応した持続可能なまちづくりへの転換

これまでは、

市街地の拡大を前提としたまちづくり

これからは、

人口減少や少子高齢の進行を前提としたまちづくり

コンパクトシティ

【呉市が目指す都市の将来像(まちづくりの基本理念)】

<都市の将来像>

**地域がつながり、にぎわい、住み続けられる都市・くれ
～コンパクトで持続可能なまちを目指して～**

【まちづくりの基本的な方針】

人と地域のつながりを生む、「自立した拠点」を育てるまちづくり

住む人の笑顔を生む、「安全と安心」を育てるまちづくり

にぎわいと活力を生む、「くれの顔」を育てるまちづくり

<都市の将来を見据えて>

コンパクトシティの形成を目指すため、本マスタープランでは、都市の将来像として「地域がつながり、にぎわい、住み続けられる都市・くれ」を掲げ、その実現に向けたまちづくりの方針を掲げています。

その実現に向け、コンパクトシティの形成に向けた「拠点づくり」や防災の取組等の「安全・安心」、また、人口減少に歯止めをかけることを念頭に、「にぎわいと活力」について、3つのまちづくりの基本的な方針を掲げています。